

# 東京都豊島区公園データベースの構築とその分析

## ～規制看板の種類とデザインの比較～

社会学部社会学科

18191107 武石純也

近年、公園内ルールが厳しくなり子どもたちがのびのびと遊べないというニュースを見たことをきっかけに公園内規制の問題について調べた。この問題の背景には少子高齢化、禁止看板の増加などが挙げられ、このような問題への取り組みとして東京都豊島区の『豊島区国際アート・カルチャー都市構想実現戦略』が挙げられた。この取り組みの一部として池袋駅周辺公園の再開発があり、来園者数を伸ばしたことや活性化など結果を出している。以上に挙げたような問題・取り組みから現在の公園の実態を調べるべく、私は豊島区内の公園にエリアを絞ってデータベースを作成し、より多くの人々が憩いの場として公園を利用するためにはどのような景観の公園が求められるか規制看板の観点から考察した。

第一章では調査を始めるにあたり本研究における『公園』と『東京都豊島区』について調べ、公園についての既往研究をいくつか紹介した。

公園に関しては歴史・公園の分類・公園の役割の3つの観点から、『東京都豊島区』に関しては豊島区の再開発事業を中心に『豊島区国際アート・カルチャー都市構想』の公園再開発について掘り下げた。

第二章では看板乱立によって景観が乱れているという問題から、公園内の規制看板に着目し、環境省の定める指針や設置までの流れについて掘り下げた。

第三章ではオリジナルの東京都豊島区公園データベースを作成した。今回調査対象とする都市公園は東京都豊島区内に89か所あり、実際に現地に足を運ぶフィールドワークを通して作成した。

作成したデータベースを基に『規制項目の種類』と『規制看板のデザイン』の二点から考察していく。まず規制看板の種類では禁煙系看板と球技禁止系看板が多くみられた。令和2年4月から豊島区の公園では全面的に喫煙が禁止されたことから多く設置されていた。球技禁止系看板については看板数は多いものの、それと伏せてボール遊び可能なスペースを設けている公園もいくつかみられ、取り組みが進められていることが見受けられた。

規制看板のデザインについては『1項目・文章のみ型』、『1項目・文章+イラスト型』、『複数項目・文章のみ型』、『複数項目・文章+イラスト型』の4つに分類し考察した。『1項目・文章のみ型』と『1項目・文章+イラスト型』は主にラミネート加工がされた、手軽なものが多くそこから多く設置されているのが見られた。また再整備された公園をみると、『複数項目・文章+イラスト型』の看板を設置されている場所が多く、他の

公園に比べて環境省の定める指針に沿った看板であることが分かった。

以上のデータベース考察を基に規制看板の種類、デザインの側面からそれぞれ課題がみられた。

まず種類の側面では、園内禁煙の周知、看板がありながらも球技禁止エリア以外での球技が行われている課題や、球技に対して柔軟に対応できていない現実が見られる。

また、再整備された公園とそれ以外の公園で比較したときに、それ以外の公園の方がより禁じる内容の項目が多く、表現方法にも課題がみられた。

次にデザインの側面では、『1項目・文章のみ型』と『1項目・文章+イラスト型』の看板が多く設置されていることから景観の損ないという課題がみえ、苦情に対する早急な対応との両立が課題である。

また、この側面でも再整備された公園との比較を行ったが、環境省が定める指針の『項目内容の多言語表記』がまだ行き届いていないことから、文化の多様性を世界に発信する豊島区国際アート・カルチャー都市構想に取り組んでいることを考えると、規制内容の多言語表記がまだ不十分なことが大きな課題である。

上記のような課題から、私は現在の公園に適した規制看板として①『～できる』の表現方法を使ったもの、②『複数項目・文章+イラスト型』のタイプ、③多言語表記がなされているもの、の3要素を上げた。しかし、あくまで公園の軸となる規制看板にこの要素が含まれるべきだということであり、規制看板には苦情から設置までの速さや視認性も同時に求められることから、上記の要素が含まれていない看板もうまく使いながら、バランスよく設置されたものすべて含めて適した看板となるといえるだろう。

本論では公園内の規制増加による窮屈さに問題提起しここまで述べてきたが、反対に規制が一つもない公園が現れたとしてもそれはただの無法地帯であり、幸せな場とならないだろう。満足度の最も高い規制の数についてはより詳しい調査が必要となる。